



## 建学の精神

キリスト教をとおして人格主義の理念を貫き、全人的人間の育成にあたる。

「あなたがたは世の光である」

(マタイによる福音書 5章 14節)

校名は、この聖句に由来します。聖光学院で学んだ者は、世のいかなる変遷にも変わることはない真理を生活の基盤とし、光の中を歩み、信仰と希望、愛を持って人々と交わり、自らもまた聖なる光を仰ぎ、人生を全うする者であるようにとの願いが込められています。



聖光学院 校章・マーク  
地に用いられた「X」はキリストを表わすギリシャ語の頭文字、「工」は「工の家の人となった」キリスト及び前身の工業高校を表わし、総じて神の同労者を表わしています。

## 学校法人 聖光学院

〒960-0486 福島県伊達市六角3

TEL : 024-583-3325 FAX : 024-583-3145



## 創立

聖光学院は、創立者野田新弼がキリスト教の信仰に立ち、キリストの光を世に証しするために、熱い祈りのうちに1962年(昭和37)〈聖光学院工業高等学校〉として創立されました。その背景には、福島伊達教会牧師の本宮幸四郎と日本YMCA 同盟委員の遠藤修司の働きがありました。本宮は、1891年(明治24)設立の長岡教会(現・日本キリスト教団 福島伊達教会)牧師、また遠藤は1928年(昭和3)にYMCA がつくられた福島県蚕業学校の教師をしていた人物です。

福島県の長岡村(現・伊達市)は、穴戸義八郎や鐸木三郎兵衛といったキリスト教に傾倒した先達により、早くからキリスト教の伝道がなされた土地柄です。

日本全国にキリスト教主義の学校は多くありますが、キリスト教主義の工業高等学校は、聖光学院一つだけです。これは、野田が「日本経済を支える産業界の経営者、技能者に〈人類愛の精神〉を基本とした考えを持ってもらいたい」と願ったためです。設立発起人にはクリスチャンであることを前提として、初代学院長に就任した元・衆議院議員外務政務次官 榊原千代をはじめとする人たちに協力を仰ぎました。また、工業高等学校としての骨格づくりには、伊達出身の工学博士 吉田五郎が顧問として尽力しました。

1961年(昭和36)5月4日、福島伊達教会において、創立発起人会が開かれました。これに先立ち、現在の校地に野田が3982m<sup>2</sup>の土地を準備していました。校舎については、福島県教育委員会の斡旋により、信夫郡信夫村(現・福島市)の旧・大森中学校校舎の払い下げを受けることができました。

ところが校舎完成直前の9月16日に、第二室戸台風によって校舎が倒壊するという、大変なアクシデントに見舞われます。翌朝、本宮牧師と遠藤と野田は、崩れた材木の上で祈ったといいます。そのとき与えられたのは、「この事業を成し遂げるのは、人間的力ではなく、神の御力に頼るべきである」という教えでした。募集が遅れたことで大きな苦勞を伴いましたが、1962年(昭和37)4月10日、最初の入学式が執り行なわれたのです。

## 創立の背景と歴史

野田新弼は事業の失敗から、死を思い詰めるほどの苦しみの中、福島五老内バプテスト伝道所の門を叩きました。アメリカ人宣教師 ダン・ビショップが何の縁故もない野田の話に耳を傾け、祈ってくれた姿に接し、また穂積与四郎牧師との出会いを通して入信し、自宅で家庭集會を開くようになりました。野田は自らが救われた喜びを多くの人に伝え、キリストの光を世に証しするために何をすべきかと穂積牧師に問うたところ「学校をつくりなさい」と促され、キリスト教主義の工業高等学校設立に献身しました。

野田はまた、戦後の疲弊した日本を復興するために働き、創世グループ(キリストの愛の心に基づいて、教育・福祉の分野で事業を展開する団体)を創設しました。

初代院長 榊原千代、初代校長 遠藤修司に加え、元・勿来工業高等学校校長の関泰平を副校長に、元・常磐女子高等学校校長の佐藤周吉を教頭に迎えることができました。工業関係の教師が少ない中、海軍大学出身の中村健夫が工業部長として中心となって尽力しましたが、突然の脳出血で急逝。聖光学院にとって重要な存在であっただけに、惜別に堪えないものがありました。

開校時には実習実験の場がなく、企業に依頼して工場実習を行ないました。苦肉の策ではありましたが、学校教育だけでは教えることができない厳しい人間関係、あるいは生産と労働の厳しさといった社会勉強を、体験を通して会得させられることがわかり、得難い経験として意義深いものでした。そのため、実習実験の場が整えられてからも続けられ、聖光学院の特色の一つともなっています。

開校2年目にあたる1963年(昭和38)からは、高等学校進学者が激増する時代に突入。入学希望者が増え、特に機械科は1学級増で対応するほどでした。しかし、初年度入学した全日制生徒124名が108名に、定時制生徒11名が6名になってしまい、学業を続けることの難しさを痛感した年ともなりました。

体育館や実験室、製図室といった施設は徐々に整えられましたが、キリスト教主義の学校としての意義を明らかにし、教育体系を整えていくためにも、伝統を持つキリスト教諸学校に指導と協力を仰ぐ必要があると考え、キリスト教諸学校教育同盟への加入申請を行ないました。明治学院院長(当時) 武藤富雄やオリジン電気株式会社社長(当時)の後藤安太郎も評議委員に名を連ね、武藤はキリスト教諸学校教育同盟申請時の推薦者も引き受けています。

開校当初から、全日制だけでなく、勤労青少年のために夜間定時制を併設。しかし、時代の変遷によって定時制志願者が減少したため、電気科と電気通信科を一つにまとめて機械科との2科にするという段階を経て、結局1973年(昭和48)惜しまれつつも募集停止に踏み切りました。

1974年(昭和49)には普通科を増設。1977年(昭和52)には、校名を〈聖光学院高等学校〉に改称しています。1979年(昭和54)からは女子にも門戸を開放し、男女共学になりました。2007年(平成19)には、通信制課程の普通科を開設しています。工業学科では、資格取得を支援するプログラムが組まれています。全国工業校長会主催の全国ジュニアマイスター顕彰制度に参加し、「ゴールド」を輩出しています。



創立者 野田新弼(～2008年)  
高校設立から始まり、自動車学校や介護施設、幼稚園など、生涯に20を超える事業を興しました。